

研修だより

生徒一人ひとりが、達成感のもてる授業の創造

2016年11月29日

No. 4

小郡中学校 研修部

文責 宮川 聡美

11月16日には授業力向上実践研修会を無事に終えることができ、本研修も終盤に差し掛かっています。研修会では当日だけでなく、準備から片付けまで大変お世話になりました。他校から参加された方からも、協議会の雰囲気がとても温かく意欲的で、楽しく参加できたというご意見をいただきました。日頃の研修の成果を発表する場となり、指導助言を受けたことで、本研修もさらに充実したものになっていくと期待します。

※今学期も、成果を見るための一つである、生徒による授業評価をよろしく願います。

★第4回授業研究会★

数学（比例と反比例） 1年5組 【11月16日】

授業者：藤山 峰至 先生

目標：『ともなって変わる2つの数量』を見つけ、関数の変化の様子をまとめよう

とてもよい雰囲気の中グループワークによる理解深化を中心に、生徒が思考錯誤しながら関数について理解を深めていきました。電子黒板も有効に使用され分かりやすい教具など、工夫が至る所に見られる授業でした。



よかった点

説明（復習）：・電子黒板が有効活用されていてよい。

- ・導入が、文化祭のモザイクアートを利用したもので、実生活に即している。モザイクの模型も赤で分かりやすかった。

理解確認：・個人から班での話し合いにいくのがよかった。

理解深化：・考える時間が多くあった。

・ホワイトボードの活用がよかった。

- ・タブレットを活用し、意見を電子黒板に映して、お互いで共有することができた。
- ・「他の班にないような意見を」という言葉かけがよかった。
- ・自由な発想で主題に近づいている。・いろいろな意見が出て、しっかりと考える

場となっていた。

課題

理解確認：・電子黒板は大変よいが、場所によっては見えにくいところもあった。

理解深化：・話し合いの時間が長過ぎた。

- ・話し合いの仕方に工夫が必要。進め方、発表の仕方、座る向きや発表の聞く態度など。
- ・関数を取り上げているということで、数で表すということを確認しておくべき。
- ・生徒の言葉をもう少し拾うと、膨らみがあるのでは？

指導助言として研修の取組について、活発な協議がなされている点がよく、研修の雰囲気が子どもにも伝わると教えていただきました。授業改善に焦点をあてており、さらに質的に改善がなされることが一日中授業を受けている生徒にとっては、大切であるとのことでした。小中連携を通して、小郡地区4校で教員の意識を変えようといふことがなされていると言われました。

また、「価値づける」ということに関しては、より効果的な価値付けとして普段からの人間関係が大切であり、子どもがそのまま自分を出す場面がないといけない、何がどのようによいかを伝えるとよいと助言をいただきました。

アクティブ・ラーニングにも触れられ、アクティブ・ラーニングの特徴である「主体的」「対話的」「深い学び」の中でも「深い学び」が重要であり、今日の授業にもその要素が含まれていると示唆されました。

これらの振り返りから 次回の授業改善の目標は

「アクティブ・ラーニング（深い学び）を

意識した理解深化をめざそう」です。

福井県は、長く中学校の全国学力・学習状況調査でトップの成績を示し続けている。すでに「主体的・対話的で深い学び」が行われている。さらにその時の子どもの反応に応じて学びをデザインしていている。一人の教師が1～3年の全学年を担当する「縦もち」である。授業へのワクワク感が、何よりも大切な、学びに向かうための原点であり、子どもの言動の中にある、数学的な見方・考え方を見とる目が大事である。

「授業名人」学力向上の心得

- ① 課題設定：日常生活の中から適した事象を提示し、そこから課題を発見させる。
 - ・多様性を追究し、発展的に考えていく態度を養うための課題設定を行う。
- ② 自力解決：自分の考えが活かされたり、聞いてもらえたりすることが、学びに向かう力になる。
 - ・授業では既習を意識させ、自力解決を図っていく過程を大切にする。
 - ・授業冒頭、復習がてらのミニワークシートに取り組む→個々の考えをお隣さんと確認しあう→グループごとに互いの考え方を聞いたり、伝えたりする→クラス全体で解決法を学び合う場に移る
 - ・単元の学習の中では活用する場面も必ず入れる。
 - ・実生活との関連も意識し、学んだことが使える課題をつくる。
- ③ 学びあい：課題解決を図る中で、生徒に価値葛藤させる場面が深い学びあいの場となる。
 - ・生徒は誤答より思考を深める。誤答も発言できるような学級経営も重要。
- ④ まとめ：「何ができるようになるか」というねらいに沿いつつ、教師個々でまとめる。
 - ・教師・生徒個々の考え方を尊重し、自信を持たせる。
- ⑤ ふり返り：その授業でどんな力をつけるのか、何を評価するのかを考えた上で、振り返りをさせる。
 - ・ふり返りは、生徒に具体的な表現をさせるために話させる。
- ⑥ 板書：子どもがノートに写す際、自分の考えたことを記させる余白をもった板書が必要
 - ・板書は思考の流れを整理したものであり、ノートの見本ではない。

(⑦～⑩は次号で紹介します。「学力向上プラン」に当たる部分です。)

★公開授業レポート November★

- ◎山崎先生（「伝わりやすい文章を書く」国語）「細部」をいかに伝えるかを追求した授業でした。読み手に伝わりやすい文章をいかに書かせるかが課題といえそうです。
- ◎黒田先生（「内容をとらえ工夫して音読しよう」国語）グループで音読をすることで、お互いが刺激になる内容でした。グループ内で役割などがスムーズにいくとさらに効果が上がるとおもわれます。
- ◎室田先生（「仮定と結論の意味を理解し、三角形の合同条件を基に2つの三角形が合同であるかを判断する」数学）教科書やノートを写したものを電子黒板に投影し、直接マーカーするなど、非常に分かりやすい授業でした。

3-2 (国語)



1-6 (国語)



2-5 (数学)



第6回研修職員会 について

開催日 平成28年12月5日(月) 第5回授業研究会
5校時 社会(小倉先生) 15:30～ 研究協議
場所 2年組 会議室(協議)

※指導案検討会を、本日 12月1日 (16:30～) 校長室で行います。